

令和6年度 学校図書館活用計画・評価シート

白地部分：計画策定時記入（年度当初）

水色部分：評価時記入（年度末）

足立区立亀田小学校 校長 大井欣一

1 学校教育目標

かんがえて めあてをもって たくましく 友だち思い 亀田の子

*「知」・「徳」・「体」の調和のとれた人づくり

- めあてをもち、自分なりの考えをもち、意欲的に学習する子
- あきらめない強い心と、やり遂げる体力のある子
- 自分に自信をもち、自分を、友だちを大切にできる子

2 現状の学校図書館の課題

- (1) 令和元(2019)年度末、「IKEA(イケア)」の支援を受けてリニューアルした図書館内だけでは、蔵書(約13,000冊)を配架し切れないため、「図書館の廊下(窓側を含む)」3面に、計7台の書架を設置し、「0類」から「4類の途中」まで配架している。
- (2) 「全国学校図書館協議会(全国SLA)」が作成している「学校図書館メディア基準」の「蔵書の配分比率」で見ると、蔵書構成が、「9類：25%(SLA)→52.5%(本校)」と2倍以上である。一方、「0類：6%→1.7%」、「1類：3%→1.3%」、「2類：16%→6.6%」と低い。
- (3) 「固定時間割」で全20学級の「図書館優先使用時間」を決めているため、「図書館支援員」の勤務日：4日間(月・火・木・金)で、図書館を「学級単位」で自由に使える時間が「4時間」と少ない。
- (4) 「学級単位」で図書館を利用している時間に、他の学級の児童が利用を控えることが多い。
- (5) 「図書館支援員」の勤務日ではない「水曜日」に、図書館の利用が少ない。
- (6) 「図書館」を「学級単位」で利用する時間に、「読書」だけで終わってしまうことが多い。
- (7) 「読書感想文」や「図書館」を活用した「調べる学習」を、自信をもって指導できる教員が少ない。

3 今年度の学校図書館の目標

- (1) 「本」を、「1冊」でも、「1ページ」でも多く読もうとする意欲を高める。
- (2) 「図書館資料」を積極的に活用させて、「調べる学習」を推進する。
- (3) 「中休み」や「昼休み」など、「授業時間以外」での児童の来館回数(利用)を増やす。
- (4) 「蔵書構成」を改善したり、「配架」や「展示」を工夫したりして、図書館の「環境整備」を進め、「児童」や「教員」が利用しやすい図書館をつくる。

4 今年度の重点取組

- (1) 年間を通して、計画的・継続的に「図書館」を利用して学習させる。
- (2) ICT機器だけでなく、(新聞を含め)「図書館資料」を活用した「調べる学習」の授業を積極的に行う。
- (3) 「司書教諭」が中心となり、「図書館支援員」の意見も参考にして新刊本等の「選書・購入」を行い、「全国学校図書館協議会(全国SLA)」が提示している「蔵書の配分比率」に近づける。

- (4) 図書館廊下の「面出し展示コーナー」や、「図書館支援員」担当の「掲示板」での広報活動（毎週更新）等、児童に向けて年間を通して、計画的・継続的に仕掛けを施す。
- (5) 「貸出冊数」を、「通常：5冊」、「読書旬間期間・長期休業前：6冊」とする。
さらに、「読書旬間」に「貸出冊数：プラス1冊券」を発行し、児童がより多くの本を借りたり、読んだりする機会を増やす。
- (6) 複数の児童が「読みたい本」を「公平」に届けるため、「本の予約制度（1名につき1冊）」を導入・定着させる。

5 教科等における年間指導計画（対象学年は○数字で記載）

教科	内容（学校図書館を活用して取り組む単元等）
国語	①としょかんへいこう ①としょかんとなかよし ①じどうしゃくらべ ②本でしらべよう ②「生きものクイズ」でしらせよう ②ひろがる読書のせかい ②「お話びじゅつかん」を作ろう ③本は友だち ③仕事のくふう見つけたよ ③本で知ったことをクイズにしよう ③おすすめの一さつを決めよう ④漢字辞典 ④分類をもとに本をみつけよう ④読書の広場 ⑤みんなが使いやすいデザイン ⑤作家で広げるわたしたちの読書 ⑥パネルディスカッション ⑥みんなで作ろうパンフレット
社会	③昔の道具について調べよう ④都道府県 ④ごみのゆくえ ④水はどこから ④東京都の伝統や文化 ⑤米作りのさかんな地域 ⑤情報をいかして発展する産業 ⑥日本国憲法と政治のしくみ
算数	③記ろくを整理して調べよう ⑥データを使って生活を見なおそう
理科	③春の生き物 ④動植物の様子 ⑥動物のからだのはたらき ⑥変わりつづける大地 ⑥地球に生きる
体育	③健康な生活 ⑤病気の予防 ⑥病気の予防
生活	②めざせ、生きものはかせ
外国語	③アルファベット
総合的な 学習の時間	③オリパラはかせになろう ④福祉・防災 ⑤SDGsを深めよう

実践の評価

6 図書館運営計画

(1) 日常的な取り組み

- ① 「読書時間」を確保する。
→ 全20学級が、「固定時間割」で週に1時間ずつ「図書館優先使用時間」を入れる。
- ② 「図書館支援員」の勤務日：4日間（月・火・木・金）、図書館で本の「貸出」・「返却」を行う。
→ 「中休み」と「昼休み」に、本を借りたり返したりすることができる。
- ③ 「全20学級」の教室に、「児童数+α」の本を「学級文庫」としてブックケースで常設する。
→ 長期休業後に学年内で入れ替えをする。
児童の身近なところに、「本がいつでもある」状態にし、本に親しみやすくする。
- ④ 「国語科」教科書掲載本コーナーを設置する。
→ 各学年の教室付近の廊下に、ブックケースで常設する。
9月以降、図書館内にコーナーを移設する予定である。
より多くの学年の児童が、「教科書掲載本」を読みやすくする。
- ⑤ 「全国学校図書館協議会（全国SLA）」が発行している、「学校図書館 読書と学びかたノート（低学年用）」、「学校図書館 学びかたノート（中学年用・高学年用）」を活用する。
- ⑥ 「全国学校図書館協議会（全国SLA）」が選定している「えほん50」コーナーを常設する。
→ 「リーフレット」を全校児童に配布する。
希望する児童には、「司書教諭」が作成した「えほん50リスト」を配布する。
- ⑦ 「全国学校図書館協議会（全国SLA）」が選定している「緑陰図書」コーナーを常設する。
- ⑧ 「学力向上部」と連携し、年間を通して「新聞6紙」の「第一面」を掲示する。
→ 「新聞一面比べ読みコーナー」（2階：廊下掲示板）
「新聞」に興味や関心をもたせる。

(2) 主な行事の取り組み

- ① 「読書旬間」：年3回
【第1回】 6月 → 本を「たくさん」読もう。
低学年：冊数、中・高学年：ページ数
【第2回】 11月 → 「様々な分野（類）」の本を読もう。
「読書ビンゴ」
【第3回】 2月 → 「おすすめの本」を紹介しよう。
「本の魅力」を発信する。
- ② 「おはなし給食」 → 「読書旬間」に合わせて実施
「給食の献立」に入れ、全校児童が「本の世界」を体験する。

(3) 図書委員会などの取り組み

- ① 「読書クイズ」
- ② 「図書委員会掲示板」の活用
→ 「おすすめの本」や「新刊本（新しい本）」を紹介する。
- ③ 「昼の放送」を活用した広報活動
→ 「イベント」を告知する、「おすすめの本」を紹介する 他
- ④ 「貸出冊数：プラス1冊券」の発行
→ 「読書旬間」に実施する「読書クイズ」の正解児童へ贈呈する。

(4) 環境整備の取り組み

- ①年次計画で、「絵本」を除く蔵書の「請求記号」をすべて「3桁」に統一し、本の分類への理解を深めさせ、必要な本を見つけやすくする。
- ②「図書館廊下の壁面」に書架1台を補充し、計7台になる「書架の配置換え」を行う。
- ③「図書館廊下壁面（計2面）」の書架上に、本の「面出し」展示用スペース各2段・計4段を新設する。
- ④「図書館内」と「廊下」に配架している本の入れ替えをする。
→「0類」の本から「図書館内」に配架する。
「絵本（E）」や「9類（の一部）」を「廊下」に配架する。
- ⑤「蔵書点検」による「長期間不在本」を積極的に「除籍」する。
- ⑥「長期間未貸出本」をリストアップ、紹介・展示し、活用を促進する。

(5) 図書館支援員（司書）・外部との連携

- ①「図書館支援員」担当の掲示板を活用して、効果的な「本の紹介」（毎週更新）をする。
- ②「図書ボランティア」による「読み聞かせ」を行う。
→「読書旬間」に合わせて、第1～3学年で実施する。
「朝読書」の時間を活用する。
- ③「業務計画会議」（月1回開催）で、「図書館支援員」と意見・情報交換をしたり、新企画を練り上げたりする。
- ④「図書館支援員」が作成する「貸出利用者統計リスト」を活用し、全20学級の「利用状況を確認」したり、「課題の明確化」を図ったりする。
- ⑤「図書館支援員」による、児童への「図書館オリエンテーション（4月）」を実施する。
- ⑥「図書館支援員」による、各教科等の「年間指導計画」を見据えた資料・情報の準備、提供をする。
- ⑦「学校図書館スーパーバイザー」に、「図書館全般」に関する相談をする。
- ⑧「学校図書館スーパーバイザー」に依頼し、「読書感想文」や「調べる学習」等の研修を実施する。

実践の評価

7	学校図書館利活用に関する成果目標	達成基準	達成状況
①	○「図書館」資料を活用した「調べる学習」を、1年間で1単元以上実施する。	○全20学級が、教科等で実施	
②	○前年度（令和5年度）よりも、児童1名あたり「1年間の貸出冊数」を増やす。	○前年度の64.0冊を上回る冊数	
③	○「学校図書館 読書と学びかたノート（低学年用）」、「学校図書館 学びかたノート（中学年用・高学年用）」を使用して学習し、図書館の利用や活用に活かす。	○全20学級が、使用して学習を展開	

8 学校図書館全体に関する自己評価